

## サービスコネクタ SET No.2/1

適合車種	ホンダ 4P サービスチェックカプラー	ホンダ 6P サービスチェックカプラー
商品コード	764-9011100	764-9011200

●この度はキタコ製品をお買い求め頂き誠に有り難うございます。説明文を良く理解して正しい取付を行って下さい。

### ■製品、装着についての注意

- 道路運搬車輦法及び、道路交通法に従い、法定内での運転を心掛けて下さい。事故、道路交通法違反は、全て運転手本人の責任とし、当社は一切の責任を負いませんので御了承下さい
- 組み立てミス、セッティング不良等による事故、パーツの破損等については全て本人の責任とし、当社は一切の責任を負いませんので御了承下さい。
- 組み付けミス及び、セッティング不良等によるエンジンその他関連パーツの破損、それに伴う事故等については全て運転者本人の責任とし当社は一切の責任を負いませんのでご了承下さい。
- 組み付け及び、セッティング作業は必ず、整備士資格のある方が行って下さい。また周辺部品の役割等が理解できない方は必ず、専門店の担当者又は、当社までご相談下さい。
- 説明書に記載されていない改造や仕様変更等は絶対にしないで下さい。故障、破損の原因にもなります。また精密機械ですので、強い衝撃等を与えたり、分解したりしないで下さい。
- 取付の際、必ず車種ごとのメーカーサービスマニュアルと合わせて取付作業を行って下さい。
- スパークチェックの為、シリンダー外でプラグをスパークさせる行為は、絶対に行わないで下さい。引火し、爆発しますのでご注意下さい。
- お気付きの点や、異常を発見した場合は直ちに走行を停止して、当社までご連絡下さい。

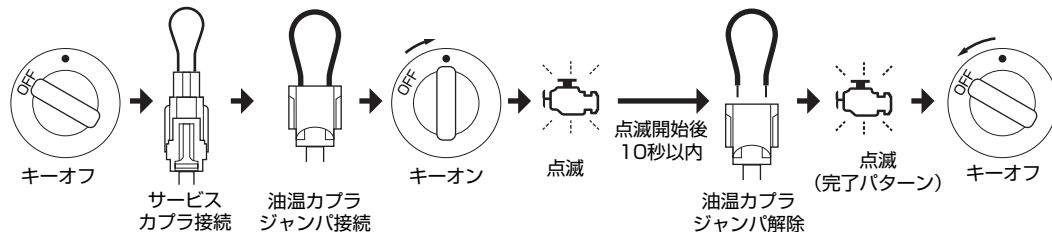
パッキングリスト		4P	6P	備考
パーツ名	商品コード	個数		
ジャンパハーネス	764-9011001	1	1	スロットル開度センサーのリセットに使用
サービスコネクタ 4P	764-9011002	1	-	
サービスコネクタ 6P	764-9011003	-	1	

### 製品概要

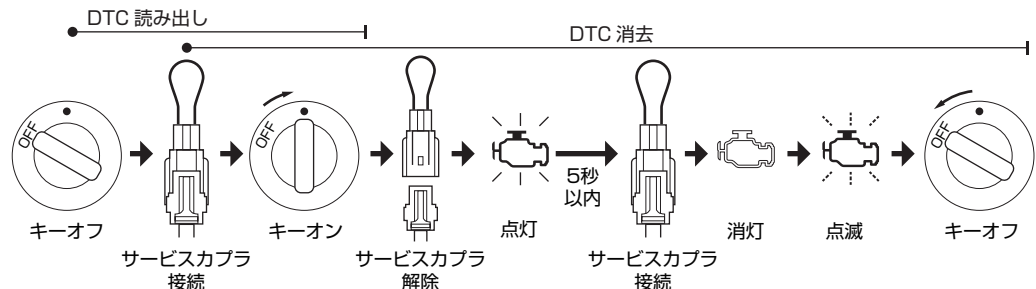
MCS や汎用スキャンツールを使用しない場合、PGM FI などの診断コード (DTC\*) の読み出しや消去、スロットル開度センサーのリセット作業をカプラーで行うサービスツールです。

\*DTC = 診断トラブルコード / Diagnostic Trouble Codes

### スロットル開度センサーのリセット手順



### 故障診断コード (DTC) の確認 / 消去



### 製品の保証について

●製造には万全を期しておりますが、万一当社の製造上の原因による品質不良がありました場合は、同様、同数の新しい製品とお取り替え又は、無償修理致します。但しそれに伴う故障、破損、事故等についてのパーツの代金、修理保証、整備費用等の代償はご容赦下さい。

●当社製品の保証期間は商品購入後から6ヶ月です。



〒577-0015  
東大阪市長田 3-8-13  
TEL.06-6783-5311 (代)  
FAX.06-6782-0740

230824

### 使用要領

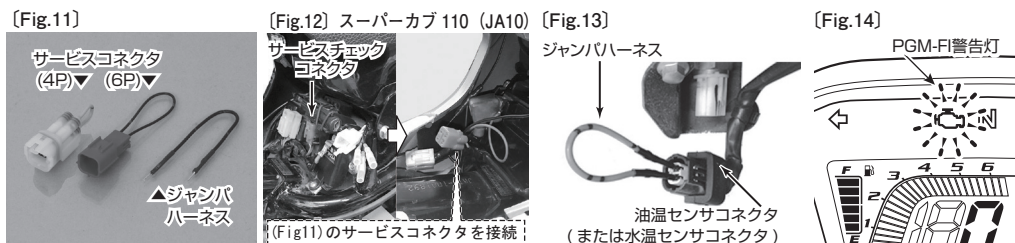
▼ **スロットル開度センサーのリセット** スロットルボディ取り付け後など、下記のセンサーのリセット作業を行ってください。

※ **車種によりジャンパハーネスを使用する場所が異なりますので、詳しくはサービスマニュアルを参照して下さい。**

※ ECM に DTC\* が保存されていない状態で、この作業を行って下さい。DTC が保存されている状態だとリセットはできません。保存されている場合は DTC の消去を行ってください。(詳細は保存された DTC の消去手順を参照)

\*DTC = 診断トラブルコード / Diagnostic Trouble Codes

- 1 メインスイッチを "OFF" にして下さい。
  - 2 各車種のサービスマニュアルでサービスチェックカプラー位置を確認の上、サービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーから、ダミーカプラーを取り外します。付属のサービスコネクタをサービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーに接続して下さい。 [Fig.11 / Fig.12 はスーパーカブ 110 (JA10)]
  - 3 油温センサ (または水温センサ) コネクタを取り外し、KIT 付属の「ジャンパハーネス」を接続して下さい。 [Fig.13]
  - 4 メインスイッチを "ON" にしてください。
  - 5 PGM-FI 警告灯 [Fig.14] が「リセット受信パターン」の点滅 (1.2 秒間隔) を始めるので、10 秒以内に「ジャンパハーネス」を油温センサ (または水温センサ) コネクタカプラーから取り外します。
  - 6 PGM-FI 警告灯が「リセット完了パターン」の点滅 (0.3 秒間隔) に変化し、リセットが完了。
- ※ 10 秒以上経過した場合および手順が正しくない場合は、PGM-FI 警告灯は点灯状態となる。 [リセット失敗] 再度、上記手順の 1. から作業を実施ください。
- 7 メインスイッチを "OFF" にして下さい。
  - 8 油温センサ (または水温センサ) コネクタを接続し、サービスチェックコネクタからサービスコネクタを取り外してください。



▼ **保存されている故障診断 DTC\* の読み出しと消去** \*DTC = 診断トラブルコード / Diagnostic Trouble Codes  
車種により場所が異なりますので、詳しくはサービスマニュアルを参照して下さい。

● (DTC) 診断データの読み出し

- 1 メインスイッチを "OFF" にして下さい。
  - 2 各車種のサービスマニュアルでサービスチェックカプラー位置を確認の上、サービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーから、ダミーカプラーを取り外します。付属のサービスコネクタをサービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーに接続して下さい。 [Fig.11 / Fig.12 はスーパーカブ 110 (JA10)]
  - 3 メインスイッチを ON にし、PGM-FI 警告灯を点検する。
- ※ メインスイッチを ON にすると PGM-FI 警告灯が点滅する。PGM-FI 警告灯の点滅回数から故障箇所を特定する。(各車種のサービスマニュアルまたは共通サービスマニュアル参照)

※ ECM のメモリ内に格納された過去の問題がある場合、PGM-FI 警告灯が短い点滅 (0.3 秒) 点灯して消灯し、DTC の点滅を開始する。

● 保存された (DTC) 診断データの消去手順


※ 通常この手順は不要ですが、診断データ (エラー等) が保持されている場合は実施してください。

- 1 各車種のサービスマニュアルでサービスチェックカプラー位置を確認の上、サービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーから、ダミーカプラーを取り外します。付属のサービスコネクタをサービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーに接続して下さい。 [Fig.11 / Fig.12 はスーパーカブ 110 (JA10)]
  - 2 メインスイッチを "ON" にしてください。
  - 3 サービスチェック 4P または 6P (赤) カプラーから、「サービスコネクタ」を取り外して下さい。
  - 4 PGM-FI 警告灯 [Fig.14] が 5 秒間点灯している間に「サービスコネクタ」を再接続します。(リセット受信パターン)
- ※ PGM-FI 警告灯 が点灯している間にサービスカプラーを再接続させる必要があります。短い点滅 (0.3 秒) しない場合は、故障診断データは消去されていないので再度、上記の消去手順の 1. から作業を実施ください。
- 5 PGM-FI 警告灯が消灯して短い点滅 (0.3 秒間隔) を開始した場合、保存された故障診断データは消去しています。 [完了パターン]

## サービスコネクタ SET No.2/2

適合車種	ホンダ 4P サービスチェックカプラー	ホンダ 6P サービスチェックカプラー
商品コード	764-9011100	764-9011200

### ▼ エンジンコントロールユニット (ECM) 初期化

- 1 メインスイッチを "OFF" にして下さい。
- 2 各車種のサービスマニュアルでサービスチェックカプラー位置を確認の上、サービスチェック 4P または 6P カプラーから、ダミーカプラーを取り外します。付属のサービスコネクタをサービスチェック 4P または 6P カプラーに接続して下さい。
- 3 スロットルを完全に開けた状態にし、その状態を維持してください。(キルスイッチが"  "の状態)
- 3 メインスイッチを ON にし、PGM-FI 警告灯を確認する。  
※ PGM-FI 警告灯が点灯後、短く速い点滅を開始します。
- 4 PGM-FI 警告灯の点滅開始後、5 秒以内にスロットルを閉じ、その状態を 3 秒以上維持してください。  
※ PGM-FI 警告灯が長い間隔で点滅し、(1 回) 繰り返します。 [完了パターン]  
(各車種のサービスマニュアルまたは共通サービスマニュアル参照)
- 5 メインスイッチを "OFF" にして下さい。

### エンジンコントロールユニット(ECM)初期化

